



植物画を
学ぶ

植物の記録を次世代へ受け継ぐ ボタニカルアート体験教室 & 講演会

SDGs
GOAL 4 質の高い教育を
みんなに

SDGs
GOAL 15 陸の豊かさも守ろう

植物を実寸大に細密に描くボタニカルアート（植物画）を学ぶ体験教室と、講師を務めた山中麻須美さんの「奇跡の一本松」とのかかわりや英国キュー王立植物園の歴史などについて解説する講演会が、11月1日（土）、市立博物館で開催され、講演会には約50人が参加しました。



イチョウとイロハモミジのボタニカル
アートを体験しました

講師は、世界に5人しかいない英国キュー王立植物園の公認画家であり、高田松原津波復興祈念公園内の国営追悼・祈念施設内に展示されている奇跡の一本松の水彩画を平成28年に描いた縁で、「陸前高田で地元の人たちに向けた教室を」という思いから本講演会および体験教室を開催。

体験会に参加した高田高校美術部の生徒は「実際の植物をボタニカルアートで表現する先生の技術がすごかった。体験する前は難しいと思っていたけど、先生に教えてもらいながら楽しく描けた。葉脈の描き方など、普段の絵にも生かせる技術を学べた」と振り返っていました。

音楽で
活力を

音楽を通じて被災地、日本全体に活力を届ける ウィーン・フィル & サントリー音楽復興基金 ～こどもたちのためのコンサート～

SDGs
GOAL 4 質の高い教育を
みんなに

SDGs
GOAL 17 パートナリシップで
目標を達成しよう

ウィーン・フィル & サントリー音楽復興基金による「こどもたちのためのコンサート」が、11月9日（日）、奇跡の一本松ホールで開催されました。

本コンサートは、平成24年からウィーン・フィルハーモニー管弦楽団員が国内の被災地を訪れコンサートや演奏の指導を行い、次世代の音楽愛好者と演奏者育成のために実施している取り組み。当日は、コンサートの他にも楽団員と地域の学生とのワークショップがあり、楽器ごとの演奏のコツの解説や指導を行いました。

ワークショップに参加した高田高校吹奏楽部の生徒は「ワークショップでの演奏では緊張したが、息の出し方などのとても参考になるお話を聞いた。コンサートも迫力のある素晴らしい演奏だった」と振り返っていました。



世界トップレベルの素晴らしい演奏を披露してくれました
© 飯田耕治 / サントリーホール

観客魅了

プロのプレーに市民ら熱狂 埼玉上尾メディックスのホームゲーム開催

SDGs
GOAL 11 住み続けられる
まちづくりを

SDGs
GOAL 17 パートナリシップで
目標を達成しよう

バレーボール・SVリーグ女子の埼玉上尾メディックスのホームゲームが、11月22日（土）、23日（日）の2日間にわたり、夢アリーナたかたで行われました。



豪快なスパイクで会場を盛り上げました

令和3年から岩手県をセカンドホームとし、本市でも合宿などを行い交流を深める同チーム。本市での公式戦は3年ぶり2度目となり、22日（土）は市民ら600人以上が詰めかけ、力強いスパイクなどに魅了されながら熱い声援を届けました。

試合終了後には、選手を代表して^{たかたの}岳野ひかる選手が「3年ぶりの開催となり、今日をとても楽しみにしていた。たくさんの応援ありがとう」とあいさつ。全力プレーを見せてくれた選手に、観客の皆さんも惜しみない拍手を送っていました。

ゼロカーボンで もっといいまち 第9回



ゼロカーボン（脱炭素）とは：温室効果ガス、特に二酸化炭素（CO2）の排出を実質ゼロにすること

本市は、2050年カーボンニュートラルに向けて環境省が選定する脱炭素先行地域に選ばれました。本連載では、市が推進する脱炭素に向けた取り組みについて紹介していきます。

エネルギーマネジメントシステム導入による建物の省エネ化の推進

エネルギーマネジメントシステム（EMS）とは、建物などのエネルギーの使用状況を可視化し、監視・制御することで、省エネルギーやコスト削減、効率的なエネルギー運用を目指すシステムです。

脱炭素先行地域事業においては、市庁舎などの電力消費量が多い公共施設などに対し、EMSを導入します。これにより、建物内の電力消費量や温湿度環境を可視化するとともに、空調設備を適切に運用することで、対象施設の省エネ化を図ります。



グリーンスローモビリティの導入推進

グリーンスローモビリティは、時速20km未満でゆっくり走る、環境にやさしい小型の電気自動車です。現在、市民や来訪者の皆さんの新しい交通手段として、観光施設や商業施設、市営住宅などを結ぶ2台が運行し、「モビタ」の愛称で親しまれています。

脱炭素先行地域事業においては、更なる滞在型観光促進と市民の移動手段の確保のため、グリーンスローモビリティの追加導入を計画しています。

本年は、3台目の車両として、サッカーJ1・川崎フロンターレのチームカラーやエンブレムを随所に用いた「川崎フロンターレ仕様」のモビタを新たに導入しました。



川崎フロンターレ仕様のモビタ

本市が取り組む
脱炭素先行地域計画について

計画名 脱炭素と資源循環で実現する農林水産業振興
～復興の先の創造的産業振興モデル～

詳細は
こちら



問い合わせ先 市役所脱炭素推進室（内線341）